

会話式キリスト教弁証学（パート4）

かけ橋となる

伝道の準備段階から福音の分かち合いへと移る

デビッド・ゲスラー

この会話形式の弁証学の第一回シリーズでは、まだ福音を信じていない段階にいる友人たちのことをどのように理解していけばよいかを**取り上げた**。その中で、**まず必要なことは、彼らの話しを熱心に聞くということだ**ということ**を学んだ**。その次に**ステップ2で触れたのは、防御的態度になるのを最小限とし聞きたいという好奇心を引き出しつつ、不確かな点を探り当てるような質問をすることで真理を浮き上がらせるようにすること**であった。そしてステップ3は「人々が福音を受け入れるために障壁となっているものを**取り除く**ことができるように助ける。」こと**であった**。4つ目は福音を受け入れる前の段階にいる友人たちを福音へと導くためにどのようなことができるかについて考える。

会話を進めていく中で、私たちは相手がキリストについて肯定的な印象を持つように導き、伝道を始めるときかけを探していく必要がある。けれども、私たちの生きている現代社会で、福音を伝えていくのはたやすいことではない。理由は、根深い懐疑主義、無関心によるが、それらに加えて、真理や高い道徳観を拒絶しようとする傾向があるからである。その結果、ある人たちが福音へ向かおうとしてもはっきりとした道筋が見えなくなり、真理が届けられなくなってしまうのである。しかしながら、私たちは福音を伝えるかけ橋となることができ、そのためには、次の4つのステップを心に留める必要がある。

1. 共通基盤を見つける

まず、働きかけを行う相手との間にどんな「共通基盤」があるかを見つける必要がある。使徒パウロは「弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。」（第一コリント9：22）と言っている。これは、私たちの信仰についての信条と信じる前の段階にいる友人たちの信じていることの中に重なるものを見つけるという意味である。例をあげると、ある日、私がユダヤ人の不可知論者と大学キャンパスで話していた時のことである。彼は自分は聖書を信じてもないのにクリスチャンたちが彼に聖書を用いて証しようとしたと言って腹を立てていた。彼は神が存在するかどうかについても確信していなかった。そこで、私は真理に関することを話すことによって彼との共通基盤を探ろうとした。話しは延々と続いたが、最後に彼が言ったことは「君と話した結果、僕はこのことについて一晩じゅう、考えなければならなくなったよ。」だった。彼の反応は私の予想とは違うものだった。なぜなら、私は彼にキリストを伝えようとするために、まず共通基盤を

見つけようとしていたからである。共通基盤を発見するためには、たとえば次のような霊的質問をやんわりするのがよいだろう。「あなたが何を信じるかはあなたにとって意味のあることか？」或いは「イエスと他の宗教指導者の間に何か違いがあると思うか？」などである。もちろん、このようなアプローチは別段目新しいものではない。新約聖書に書かれているパウロのアプローチ方法は、彼がだれに向かって話しているかによって変わっている。彼は語りかける相手との間に常に共通基盤を見出そうとした。使徒書28章で、彼はユダヤ人たちに、イエスは旧約聖書に書かれている預言の成就であることを示した。なぜなら、ユダヤ人たちは旧約聖書には権威があることを信じており、メシヤについてもある程度理解していたからである。また、彼は一神教の神についても分かち合った。使徒書17：23-31を見ると、パウロは旧約聖書を受け入れていない多神教を信じる者たちに語っていることが書かれている。彼は彼らの礼拝する知られていない神について話し始めたが、徐々に宇宙を造られた神について教え始めたことがわかる。

共通基盤を見つけることが相手に聞いてもらう権利を得ることにつながることもある。共通基盤を見つけることについての私の教え子のひとりの経験談である：タクシーに乗った時、運転手がオーディオ機器で仏教のお題目（マントラ）を聴いていた。彼は丁寧に私がいやなら、その音を消すと申し出た。私はその音はいやだったが、彼が聴いているものについて質問するきっかけを作ろうとした。彼はそれが何であるかについて語り、それについて説明してもいいか聞いてきた。私は私が彼の説明を聞いたあと、次に彼が私の話すことを聞くことを条件に、聞くことを受け入れた。彼は自分の仏教の信仰について説明をし始めたが、同時に、他の信仰についてもオープンであると付け加えた。そこで、私はキリスト教が他とは違うことについて話してもいいか尋ねた。そしてタクシーが私の行き先に到着するころ、私は彼を自分の教会に招くことができるようになっていたのである。彼がオープンになったのは、まず私自身が彼の話すことにオープンになって聞いたからである。私は彼のお題目（マントラ）を聞き、そのあと彼の信仰について聞いたのである。そのことによって、互いを理解しようとするのが共通基盤として生み出され、彼は私の話すことに対してオープンになったのである。

だれかが自分の信じていることを話している時にその話を興味深く聞くなら、あなたはその人との間に共通基盤を築くことができ、霊的な話へと向かいやすくなることがある。

2. 共通理解を得ることのできるものを探る

共に理解し合えるようになると、そこから信じているものを分かち合う状態へと移ることができる。共に理解し合えることとは、私たちが福音を信じる前の段階にいる人たちに核心をついた質問をしたり、或いは、**彼ら自身が真理を押しえつけられないほどの危機に遭遇しない限り認識できないものかもしれない。**（ローマ書1：18を参照）たとえば、多く

のアジアの未信者たちは、熱心な仏教徒であると言いながら、宝くじに当たることを願うことが間違っていることに気づかないでいる。他から指摘されて初めて気づかされるのである。更に、あなたが賛同していなかった事柄についても、彼らがあなたと話すことによって、以前とは別の考え方をするようになっていく場合がある。そうすると、他の分野においても互いの間に共通の理解を持つことのできる基盤ができるようになってくる。たとえば、だれかが「すべての見解が正しいとは限らない」と考えられるようになると、その人に「人や宗教に関する見解には間違いがあると思いますか？」と問うことができるようになる。もし彼らがそのことに同意すると、次に「では、あなたはだれが正しくてだれが間違っているか、どのように決めることができますか？」と問うことができるだろう。この時点で、あなたは人としてのキリストを彼らに紹介し、キリストがいかにユニークな存在であるかについて話すことができる。アジアで福音を伝えるためのかけ橋を作るのに特に助けとなるアプローチは、文化の違いを超えさせるものを見つけることである。たとえば、私はある時、タクシーの運転手にキリスト教は他の宗教とどんなに違うかを説明しようとした。天国に入るために私たちがしなければならないものはなく、私たちのためにそれはすでに備えられているということ話をした。それを聞いた運転手の答えは「私たち中国人はそんなことは信じない。」であった。のちに私は中国の伝統的な言い伝えについて勉強し、気づいたことがあった。もしその時それについて知っていたなら、私は彼に次のように質問できたのだ。「祖先崇拜は、死んで何もできずにいる先祖たちのために、私たちが何かすることができるかと信じて行っているものではないのでしょうか？そして、もしそうなら、私たちのできないことをイエスが代わりにやってくれることも真実ではないのでしょうか？」この問いかけは、伝統的な中国の言い伝えを信じている人たちに福音を伝える時に役立つものである。

これらのかけ橋は「頭の橋」「心の橋」と言える。心の橋は、イエスが人々の生活の関心事に対してどのように語っているかを理解させてくれる：イエスは人々の心の願いを満ちし、彼らの希望について気づかせてくれている。人生の意味は、神との個人的な関係の中のみ、見出すことができる。キリスト教擁護者であるラビ・ザカリアスは次のように指摘している。「イエスは神こそが人生の作り手であり、人生の意味は神を知ることによって見出されると言明している。仏教はこの教えを完全に否定し、神の存在そのものをも否定するのである。」他の人たちに語りかける時、まず心の橋が最初に作られなければならない。ポストモダンの考えがもたらされ、しだいに理性や合理的見解に見切りをつけてきた世界に生きる人々に対して、聖霊こそが彼らに立ちはだかる障壁を打ち破って、人々の心に浸透していく必要がある。私たちはイエスがどのようにして真の違いをもたらすことができるのか、ポストモダンの考え方に魅きつけられている人々がそのことを理解できるように助ける必要がある。例をあげると、最近私は元ヒンズー教徒で今はキリスト教宣教師になっている人に改宗のきっかけとなったことは何かと尋ねた。すると彼の心に最も大きなイ

ンパクトを与えたことは、イエスが十字架上で死んだ時、イエスが「父よ。彼らをお許してください。彼らは何をしているのかわからないのです。」と言ったことだと語った。現代は聖書をそのまま信じる根本主義を強制的に従わせるものであると考える時代である。このような時代にあって、この事実は重要な心のかけ橋となるものである：求道中の友人にイエスは私たちが敵を憎むのではなく、迫害する者を愛し、彼らのために祈るように教えておられる（マタイ5:44）ことを思い起こさせよ。イエスの語っていることは、私たちが他の人たちに分かち合う必要のある新鮮な真理である。

人々を獲得するために必要な第一ステップは心の橋を架けることであるが、共通の理解を用いることによって、頭のかげ橋を架けることも大切である。最も大切な頭のかげ橋のひとつは、「信仰が生かされるためには対象がなければならない」ということを理解することである。大切なのは信仰という行為そのものではなくて、私たちが何を信仰しているかである。他の宗教創立者たちの場合、彼らを取り去っても彼らの創設した宗教システムに大した影響を与えることはないが、キリスト教からキリストを取り去って、キリスト教でありうることはできない。同様に、復活を取りのけてしまうなら、キリスト教でありえなくなる。私たちはキリストは死から甦ったという歴史的事実によって、彼を神の御子として信じているのである。頭のかげ橋と心のかげ橋の両方を架けるということ：「あなたの信じていることとは、いかにあなたが生きているかである」「すべての宗教的な見解が正しいとは限らない」「信仰には信じる価値のある対象があるはずである」「イエスが宣言していることは、他の宗教指導者たちと比べて、ユニークである」（ヨハネ10:30、ヨハネ14:6、使徒書4:12、第一テモテ2:5）私たちが伝える必要のある大切な真理は、他の宗教指導者たちと比較して、キリストの宣言がユニークであるということだけではない。キリストが宣言して立証したことは、他の宗教指導者たちを遥かに超えたものである。たとえば、私は未信者に「キリスト教と他の主な宗教との大きな違いについて知っていますか」とよく質問をする。そして、次にキリストだけが自分は神であると宣言した宗教指導者であると指摘し、キリストは罪を犯すことがなく、生まれる何百年も前に書かれた預言の成就であり、十字架上で死んで、甦ったことを伝える。これだけでも、キリストがいかにユニークであるかがわかる。

3. 目標を覚える

私たちは目標を忘れて、伝道準備だけに捕われるようになってはならない。（第二テモテ4:2）目標とは人々がイエス・キリストに近づくことができるようにすることであり、そのために障害となっているものを取り除かなければならない。（第一コリント3:6）もし私たちが伝道準備のことだけに集中するなら、十分な伝道はできない。塩と光となるようにという神の命令を成就することはできなくなってしまう。（マタイ5:13-15）けれども、私たちがしっかりと目標を定めるなら、人からの賛同を得ることはそんなに大切

ではないことに気づくだろう。それよりは、他の人たちがクリスチャンメッセージに表されている真理に気づき、「アバ、父よ」と叫ぶようになることの方がずっと重要である。(ローマ8：15)

4. 福音を伝える機会を探す

福音へと導く橋を架ける4つ目のステップは、福音を伝える機会を積極的に探すということである。たとえば、未信者の興味を促すために、次のような質問をすることができる。「だけれどあなたがあなたにキリスト教と他の宗教との違いについて話したことがありますか」そして、次のように言うことができる。「私はあなたに、ふたつの単語『する』と『完了した』を使って説明することができますよ」そして、「他の宗教は天国に行くために『これをするように』と教えます。たとえば、イスラム教では、『あなたの悪い行いが補われるために、あなたは善行を積まなければならない』と教えます。ヒンズー教では『カルマ（運命）に打ち勝って、よい生まれ変わりがあるように善行を積まなければならない』と教えます。仏教徒は『八重の道を通して欲望をなくす必要がある』と教えます。それに対して、キリスト教は何かを『する』ことについて語っているのではなく、すでに『成された』ことについて語っています。聖書は、私たちが神と関係を持つためにできることは何もないと教えています。言い換えると、どんなに私がよいことを行っただとしても、神と関係を持つ権利を得ることはできません。(エペソ2：8-9、テトス3：5) このような理由によって、キリスト教にとって大切なことは、何かを『する』ことではなく、『成された』ことなのです。イエスが私たちの罪を贖うために犠牲となってくださったのです。(ローマ5：8) 私がしなければならないことは、神が私のためにしてくださったことを受け入れて、神を私の人生にお迎えし(ヨハネ1：12) 自分の力によってではなく、神の力によって(ピリピ2：13、4：13) 内側から変えていただくことなのです。」

要約すると、会話式擁護学モデルを実践するには、他の人の見解に相違点を見出しても、誠意を持って聞くことである。そしてその相違点が自分の見解とはどのように違っているのかを、適切な質問をすることによって明らかにし、彼らの見解を正していくことである。そのために、彼らの経験してきたことや背景に踏み込み、彼らの根底にある障壁を崩し、福音へのかけ橋を築いていくのである。(第一コリント3：6)

私たちはまず聞くことから始めなければならない。そして、次にすることは科学的なことではなく、むしろアートのことである。私たちは、私たちとは違う見解を持っている彼らにそれについての質問をしたいと思うかもしれないし、質問をする前に彼らがどのようにしてそのような考えに至ったかを知ろうと思うかもしれない。一人ひとりの人の立場は違うものであり、ひとつのやり方がある人にうまく働いても、別の人にうまくいくとは限らない。私たちはそれぞれの状況において、聖霊がどのように導いておられるのかについ

で敏感になる必要がある。(ヤコブ1：5) 最も大切なことは、伝道の前に次の4つのことが必要であるということである：聞く、啓発する、明らかにする、建て上げる。これらの要素を私たちの伝道訓練にどのように組み入れたらよいかを理解できたら、懐疑論者や多元主義者、そして今日のポストモダン主義者たちに対してどのように効果的に働きかければよいか大いなる助けとなる。

イッサカルの時代の人々を助けられたように、神は今の時代に生きる私たちにも理解できるように助け、何をすべきかを教えてください。

何かフィードバックがあれば、次のところにしてください：
dgeisler@meeknessandtruth.org

デビッド・ゲスラー博士はミークネス・トゥルース・ミニストリーの代表、及びシンガポールバイブルカレッジ、トリニティ神学大学、イーストアジア神学校の準教授である。彼は新しい伝道プログラムの枠組みをアジアで活用するために3年前から家族と共にシンガポールに住んでいる。

知恵のことば

私たちは獲得している勝利を永遠に祝う恵みに与っているが、その勝利を得るには、日が暮れるまでのほんのわずかな時間しかないのである。

ロバート・モファット